

「学力向上ポートフォリオ(学校版)」

～ 「真の学力」 育成の継続的な取組を目指して ～

＜本年度の学力向上基本方針＞

○主体的な課題解決をとおしてねらいとする力を確実に身に付させる

＜本年度の学力向上策＞

- 1 基礎学力の確実な定着を図る授業の研究・実践
 - (1) 特別支援教育の手法を生かした指導（教育のユニバーサルデザイン化）
 - ・教師の指示や板書の改善、教室掲示等の共通化
 - ・単元の見通しの明示化
 - (2) 東小十の約束（学習篇）の徹底・定着
 - ・チャイムで授業開始
 - ・返事
 - ・学用品のルール
 - (3) 全国学力・学習状況調査（6学年）、さいたま市学習状況調査（3～6学年）の調査結果の分析と共通理解・学習指導での活用
 - ・各教科における成果と課題の把握
 - ・学力向上カウンセリング学校訪問の活用
 - ・課題克服シートの活用
 - (4) 『よい授業』の4つの因子を反映させた授業実践とその実態調査
 - (5) 学校課題研修（国語力向上等）に基づく指導法の研究や共通実践
 - ・研修をとおして「書く」活動を重視し、論理的な思考力を育てる
 - (6) 家庭学習の習慣化
 - (7) 大宮東中学校区共通「アクションプラン」の推進
 - (8) 読書活動の充実、読書好きな児童の育成
 - ・図書ボランティアによる読み聞かせ
 - ・ブックウォーク
- 2 コミュニケーション力の育成
 - (1) 学校課題研修の推進
 - ・各教科・領域における「話し合い活動」の工夫と積極的な導入
 - (2) 外国語でコミュニケーションを図る能力の育成（「グローバル・スタディ」）

＜本年度の振り返り＞

「基礎学力の確実な定着を図る授業の研究・実践」として、「教育のユニバーサルデザイン」の見直しと、「東小十の約束」についての共通行動を推進してきた。学習状況調査については、7月に学力向上カウンセリング訪問、10月（全国）と3月（市）に自校の分析と実態把握の研修を行い、授業改善につなげるよう活用できた。学校課題研修では、大学から講師を招いて評価に関する講演会を実施するとともに、外部の指導者を招いての授業研究会やブロック別の授業研究を行った。あわせて、学習に関する実態調査や環境整備を行い、全職員の実践報告もまとめることができた。

「コミュニケーション力の育成」としては、国語科の授業を中心にさまざまな場面で児童同士の「学び合い」の活動を推進した。「グローバル・スタディ」も新しい年間指導計画の下、評価の工夫をしながら実施し、児童も積極的に活動することができた。